



つなぐ人 フォーラム

10分プレゼンテーション 一覧

45分プログラム 一覧

(1/31 現在)

- ◆ 2018年1月31日(水)現在の情報です(順不同・敬称略)
- ◆ 当日までにプログラムの追加、変更、中止の場合があります
- ◆ 実施時間ならびに会場は当日ご案内します
- ◆ 10分プレゼンテーションの一般参加の方の受付は終了しました
- ◆ 45分プログラムの参加エントリーは1日目夜に受け付けます(定員制)

1日目・10分プレゼンテーション 一覧 (1/31 現在)

□ **人の一生を抱きしめる僧侶** (鈴木 秀彰/僧侶)

亡くなってから「ヨロシク」じゃ、お坊さんも寂しい。これはわたしの名刺裏の文章。生前の関わりに力を入れている。その中でも対話を中心としたワークショップを展開。

□ **“Vision がたり”という試みについて** (鶴川 洋明/ミラクカンパニー株式会社)

人の内側、奥の方には、誰しもが必ず“本当はこういう世界を見てみたい、生きてみたい”という源泉があるんだと私は信じています。本来それを描く創造力と想像力と表現力を人は持ち合わせているはずなのに、それを使い育む場がないのはもったいない。という思いからライフワーク的にしている私の試みのご紹介。

□ **津波復興祈念資料館「閑上の記憶」** (丹野 祐子/閑上中学校遺族会)

語り部を始めたきっかけ、語りつぐことの意味、いのちの大切さ。普段「閑上の記憶」での活動をご紹介させていただきます。

□ **フリーランスの女性サメ専門家 シャークジャーナリスト** (沼口 麻子/フリーランス)

サメ好きのわたしが「好き」を仕事にした理由と、シャークジャーナリストの活動などを紹介。渋谷区でOLを8年間していたが、大好きなサメを仕事にしたいと考え、2012年12月にフリーランスに。現在は、ボアエージェンシー所属タレントとして、テレビやラジオ、雑誌などでサメの魅力を発信中。

□ **大切な人が元気になる! 「ほめ介護のススメ」** (小野寺 美和/Happy Life Labo)

寿命100年時代の心の備え『ほめ介護』は、介護哲学「ユマニチュード」をベースに、ほめ達とアドラー心理学を融合したアプローチ方法。表情や声掛けなどの接し方を変えることで、症状や行動に変化が起こります。介護する側も、される側も元気で、自分らしくいられるマインドセット(心構え)・関わり方をお伝えいたします。

□ **話の見える化を活用～発達障害と社会を繋ぐ場づくり～** (鈴木 さよ/TAGAYASU)

話の見える化を活用した場づくりを探求しています。絵と文字をリアルタイムにその場で描くことで、対話や会議の活性化や、関係性の質の向上など、様々な場面で活用できるグラフィックファシリテーション。発達障害者と支援者、研究者等が対等つながれる場づくりへの活用を中心にご紹介させていただきます。

□ **見つけてビックリ! 情報でつなぐ樹木の変化** (小山 泰弘/長野県林業総合センター)

私たちが毎日のように見ている公園の木。樹木である以上、毎年一本ずつ年輪を刻み成長しているはずだけれど、日々の生活に溶け込んで、その変化にはなかなか気づかない。でも、世の中の様々な情報をつないでみたら・・・半世紀を駆けた一本の木に注目します。

□ **かわいいで伝えるサイエンス グッズを使った教育普及** (片山 美雪/下仁田ジオパーク)

かわいいを切り口に、科学の裾野を広げることを目標として活動を行っています。「かわいい科学グッズが欲しい!」「科学のことをちゃんと知ってほしい!」どちらもあきらめのない、かわいいグッズを使った科学教育普及の取り組みを紹介します。

□**東京諸島での地域ビジネス入門** (伊藤 奨/一般社団法人アットアイランド)

3度目のフォーラム参加となります。「想い」だけの1年目。「法人化・移住」の2年目。そして「ゲストハウス開業」の3年目。1年ごとに少しずつ進んできました。島で事業を起こすにあたっての、失敗や成功、生きにくさや豊かさなどの実体験を皆さんと共有し、「島×〇〇」の繋ぐ可能性を一緒に考えたいと思います。

□**現役通訳ガイドが語る「インバウンドの食」** (古屋 絢子/英語通訳ガイド)

全国通訳案内士として、海外からのお客様を日本各地にお連れするガイド絢子のミニトーク。外国人観光客は日本滞在中にどんなものを食べてるの？定番&意外な人気メニューは？彼らの視点から、日本の食を再発見してみませんか？

□**U/W インタープリター養成講座の開催** (檀野 清司/日本安全潜水教育協会)

1989年に清里環境教育フォーラムに参加をきっかけに、環境教育に首を突っ込んだダイバーです。昨年、NPO日本安全潜水教育協会で、スクーバダイビングガイド対象のインタープリター養成講座を開催しました。経緯や内容を紹介します。

□**『修復のお仕事展』がつなぐ人とモノ** (森 由美/株式会社 森企画)

文化財の保存修復に携わる技術者たちによる『修復のお仕事展』は、年一回の開催で昨年9回目を迎えました。日本画・油彩・染織・彫刻・建造物の修復や、保存修復支援、保存用品販売まで、よく分からない？専門的？な修復の仕事と仕事を一般の人々とつなげる試み、その足跡をご紹介します。

□**～尾瀬に行こおぜ！～尾瀬を楽しむ認定ガイド制度** (伊澤 菜美子/NPO 法人片品・山と森の学校)

唱歌「夏の思い出」で有名な尾瀬、年間30万人もの方が訪れます。その尾瀬の自然を案内する者達に、尾瀬認定ガイドという尾瀬ガイド協会が認めたガイド達があります。「尾瀬にガイド認定制度が必要である」という提言からはじまったこの制度。その取り組みと尾瀬の魅力をご紹介します。尾瀬に行こおぜ！と行きたくなるかも♪

□**前回のフォーラムがきっかけではじめた取り組み** (石田 智章/一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局)

前回のフォーラムに参加した仲間で、毎月1回ワークショップを始めました。2月で10回目を数えます。多種多様な職業の老若男女が過去を振り返ったり、地域課題を話し合ったり、自分の夢について語ったりします。知らなかった人同士が出会うことで、新たな活動が始まることを期待して運営を行っています。その活動について紹介します。

□**自然と人間のよりよい関係をめざす「ひみつ基地」** (棚橋 早苗/ひみつ基地)

私たち人間はこの奇跡の星 地球の自然の中でどう生きていけばよいのか。小さなことでもそのためにできることはないだろうか。フィールドワークや学びを続けながら、デザインにできることを模索しています。「ひみつ基地」「地球永住計画」等の活動を紹介します。

□ **まちをつくり直す繋がりを生む、集合知のアナログ化** (村上 和博/NPO 法人立山クラフト舎)

これまで富山県内にて、各種の NPO 法人、地域活性化と呼ばれるプログラム、地域の特質を活かした新しいイベントに関わってきました。その中で見てきたことは、まちやイベントを良くしたいとインフラが進めば進むほど人に頼ることが少なくなる。人と人の交流のインフラが進めば直接の交流が苦手になっていく。そこを紡ぎ直すために、直接の交流を生み出す様々なアナログ遊びや、交流を実施して、自ら実験しています。今回は、自分や周りの方が体験、見えてきた景色を伝え、体感いただければと思います。

□ **公園を作る・使う・つながる・つなげる** (小田 貴志/西武造園株式会社)

「公園は地域を映す鏡」・・・公園の規模・場所・設置目的などによって、地域市民による使われ方や利用者がそこで何と出会い、何とつながるのかも様々です。公園の指定管理者を担う民間企業のスタッフとして思うところをお話します。

□ **『つながる』からはじまる未来～美術鑑賞&ビジネス** (東 孝彦/会社員)

2007年に東京都現代美術館のガイドスタッフとしてデビューして10年あまり。さまざまなご縁から、いろいろなガイドツアーをさせていただきました。そのなかから節目となる2017年に行った取組をご紹介します、2018年に実施したい、美術の分野にとどまらないコラボレーションをプレゼンさせていただきます。

□ **子ども・若者の参画がまちを変える。** (土肥 潤也/NPO 法人わかものまちな静岡)

子ども・若者はほとんどの場合、【育つ】存在として捉えられます。しかし、彼らも大人と同じようにまちに暮らす市民であり、まちに【参画】するチカラを持っています。"静岡を世界で一番、若者に優しいまちに"していくための挑戦について、静岡での実践も交えながらお話させていただきます。

□ **ビジネスシーンで「つなぐ人がおさえない10のこと」** (橋田 知世/WORKSTYLING ビジネススタイリスト)

法人向け多拠点型シェアオフィス「WORKSTYLING」で、コーディネーター（コミュニティマネージャー）として関心のあうビジネスマン同士をつなぎ続けた経験を元に、ビジネスシーンで人をつなぐ際に押さえるべきポイントを紹介。

□ **アクアマリンいなわしろカワセミ水族館の紹介** (平澤 桂/アクアマリンいなわしろカワセミ水族館)

福島県のほうど中心・猪苗代町にあるアクアマリンいなわしろカワセミ水族館。福島県内に生息する淡水生物を中心に紹介し、中でも水生昆虫（特にゲンゴロウ類）や県内に生息する両生類をフォーカスし20センチのキューブ水槽で種類ずつ展示しています。そんなマニアックな生き物たちについてご紹介します。

□ **福祉×デザイン** (奥村 奈央子/NAOKO)

福祉×αコーディネイトで、福祉からの社会へ提案する。安定・量産のものづくりから、個別性・独自性・限定性の物語へ。

□ **SDGs ×日能研** (高木 幹夫/日能研)

学ぶことは、自分を変えていくこと。SDGsの17のゴールを使って、“世界に未来につながっている今”を考えたい。子どもたちと一緒に学びを作っていく中で、私たち大人もいろいろな挑戦をしています。SDGsとつなげてお話ししたいと考えています。

□**川崎の大型マンション ジモト連携と副産物** (山本 美賢/株式会社ロックアップ)

川崎市は溝の口の1100世帯を超えるマンションは築36年と人と建物の老いが課題。近隣の築年数の異なる大型マンションと課題を共有しながら連携を進める。そこで思いもよらない副産物も。事例を紹介いたします。

□**やりたい事と地域を繋ぐ きみつなプロジェクト** (鈴木 耕平/TAGAYASU)

自分のやりたい事にトライしてみよう。みんながそう思える世界をつくる。どこに住んでいても、やりたい事ができる。応援しあう。みんなが幸せになる。そんな世の中を目指して、できる事からコツコツと。会社員の傍ら、少しずつ仲間を集め、それぞれのやりたい事を叶える中でコミュニティを形成する活動を紹介する。

2日目・45分プログラム 一覧 (1/31 現在)

□「**ダイアログ ライク ア チャイルド**」

(黒井 良子/プラムネット(株)アウトドア共育事業部体験活動リーダーズアカデミー)

日々の忙しさに、忘れていた感覚をよみがえらせる。発達講座のワークショップ、チャイルドビジョンの(制作)と体験。★こどもの頃夢見ていた「そうだったらいいのにな」を叶えたときの感情で話すワークです。

□**森を守るオイルキャンドル** (松浦 麻子/WWF ジャパン)

火を囲むって温かい気持ちになります。その囲む火が、森を守ることに繋がっていたら素敵じゃないですか? どうしてオイルキャンドルが森を守ることになるの? というところから、ゆったり火を囲むまでを、まったり 45 分お届け。

□**アンガーマネジメントのファーストステップ** (宮坂 洋子/コーチ・シエスタ)

思わず怒ってしまって後悔したり、怒るべきときに怒らなくて後悔したりしたことはありませんか? 感情に振り回されることなく自分が感情の主人になる。そのひとつの手法がアンガーマネジメントです。観察、理解、実践によって達成されます。本プログラムではそのファーストステップとして主に、観察と区別そして衝動のコントロールについて焦点を当てます。若干のレクチャー及びワークとシェアを中心にすすめます。

□**ZEN 呼吸法~イキるとはイキしていること** (椎名 由紀/ZEN 呼吸法)

江戸時代の禅僧白隠禅師が遺した本「夜船閑話 (ヤセンカンナ)」にある呼吸法を実践し、20個以上あった不調を全て克服した経験を踏まえ、それをZEN呼吸法としてメソッド化。禅の世界に普遍に存在していた「三調」で心身を最良の状態に調える、簡単で誰にでも今すぐに行える歴史ある健康法をご紹介します。

□**つみきのそのさんとあそぼう! つながろう!**

(つみきのそのさん 園田ひでふみ/このこのまごまで つみきのそのさん)

つみきって、こどもの遊びでしょ? (- -?) 答えはNO! (^-^) 精神年齢5歳の つみきのそのさん が、日本一のつみき「童具館のワクブロック」の立方体と直方体だけを使って、冷めたオトナをアツくすることをお約束します。さあ、つみきのそのさんとあそぼう! そしてみんなでつながろう!(°▽°)

□**フードバンク活動で、おすそわけ文化の復活を!** (川口 明美/フードバンクとやま)

飽食の時代「食べ物大切に」気持ちを忘れていませんか?

フードバンク活動は食品廃棄物を抑え、微力でも地球環境を守ります。食べ物を大切に思う気持ちや、人と人の助け合う気持ちが育ちます。物を大切に古き良き日本にもともとあった活動、人と人が温かくつながる「おすそわけ文化」を一緒に広めましょう!

□**音楽の処方箋~音楽で生活に彩りを♪** (加藤 美菜子/東京室内管弦楽団)

日常の様々なシーンと音楽の効能を、具体的な例を挙げて説明し、体感してもらいます。手拍子などによるリズムセッションで、アンサンブルが合った時の快感を体感してもらえたらと思います。

□家に眠るモノでファンドレイジング

(三井 恒雄/NPO 向け物品寄付型ファンドレイジングプログラム『お宝エイド』)

家に眠る価値あるモノを NPO の資金調達として寄付を募る「お宝エイド」で 121 団体と取り組んでいます。寄付市場が小さな日本でも、モノの豊かさからの脱却、高齢化での生前整理や遺品整理などの機会もあり、単なる資金調達だけでなく、団体の活動共感支援の仲間集めの手法としても広がりつつあり、その手法についてお話をいたします。

□曼荼羅チャートを利用したワークショップ設計 (大間 哲/B.P.Planning)

進行する時間を時計回りに表現した、ファシリテーション・ツール「曼荼羅チャート」。WS の計画を視覚的に捉え、構造化や階層化が容易になります。キャンプリーダーのトレーニングや、看護師のキャリア・デザインセミナー等の事例を見ながら、曼荼羅チャートの描き方を紹介し、より良い使い方をいっしょに考えましょう。

□まちとミュージアムと遊びをつなぐを考える (五木田 まきは/金沢大学大学院)

まちづくりや地方創生が声高に叫ばれる昨今、博物館はまちと人にとってどのような場になりうるか。「遊び」をキーワードに中米ホンジュラスでの活動事例紹介を交えながら、まちとミュージアムを楽しむことを考えます。

□らしさアート ~ 本当の自分の声 (音) を聴く (太田 美保/おととわ)

「明日命が燃え尽きたら、誰に、何を伝えたいですか？」under the same sky project で掲げるメインメッセージ、震災からの学びを軸に、「死」を通じて「生きる」に向き合うワークを展開します。本当に大切なもの、人、事。想像力が生み出す本当の自分の声を描いてみませんか？

□うふふなミカン de ミカンと友達 (平原 由樹/グリーン・ビオ するが路)

食べる人・つくる人・そして大地が笑顔になれる「うふふなミカン」。低農薬ミカンづくりを通じた里山保全プロジェクトを静岡でやっています♪漢方薬やアロマなど広く活用されるミカンのチカラ。チンピなティータイムを楽しみながら、うふふなミカンのアロマウォーター抽出体験など五感でミカンの魅力を感じてみませんか？

□つなぐ人のための「本当の仕事」ワークショップ (宮本 大輝/21 世紀のしごとを共につくる「しごと商店」)

「より良い生き方・働き方」とは何かを振り返り、再発見、再創造する時間です。「天職は探すものではなく、創るもの」そんなコンセプトを元に、開発されたワークショップの特別版です。終了する頃には、自身の深いところと繋がり、より良く生きるためのご縁に導かれやすくなっていることを意図して企画しています。

□自分の中にある価値を探すカードワーク体験! (高嶋 大介/富士通/HAB-YU)

富士通の共創の場である HAB-YU では、参加者が自分ゴトとして考えながら対話をするを大切にしています。これまで 50 社以上のクラインワーカーに実施して来ました、イメージカードを使う対話の場を体験してください。

□患児の家族に思いを寄せてみませんか? (大和 淳/新潟市水族館マリニピア日本海)

病气やケガで長期に入院・療養している子供たちの親やきょうだいはどうな思いでいるのでしょうか、そして、私達はその親やきょうだいへどんな支援や応援ができるのでしょうか。プログラム前半は想像力を働かせながら家族の思いを考えます。後半は参加者同士の対話を通して、自分たちごととしてできることを考えます。

□ **「教える」から「引き出す」へ～対話型鑑賞の可能性**（鈴木 有紀／愛媛県美術館）

「どこからそう思う？」という質問を中心に進む対話型鑑賞。「みる・考える・話す・聴く」という思考サイクルで、美術や医療分野、民具や自然観察など、広く応用ができます。けれども「対話」の進行役が「教える」姿勢のままになっていると…。ここでは学校や博物館での取り組みを例に学習者主体の学びについて探ります。

□ **つなぐ・つながるコーチング**（若柳 翼／学びの案内人）

「つなぐ人」とはいうけど、つなぐってなんだ？相手とつながるにはどうする？そんな問いを、相手との協働関係＝「繋がり」をつくることが要と言われているコーチングをヒントに探究していきます。つなぐこと・コーチングに興味のある方、また私と同じく「人見知り・話すのが苦手」だという方、ともに探究しましょう。

□ **野外共同保育を親の互助会に育てるために**（梅崎 奈津子／森の共同保育「はねこっこ」）

山梨県都留市で2012年10月に活動開始した野外共同保育「はねこっこ」。親子と一緒に自然の中を“淡々と”歩き、感じる。その先に見据えていたのは「子育て中の親の友達を1人か、2人、できれば3人作れたらいい」「互助関係が真の子育て支援になる」という親類縁者のいない移住子育て者の視点でした。

□ **「まち」から「さと」へ**（宮村 知行／自然教育研究センター）

都市型自然体験施設で来館者に環境教育の一環で、来館者が旅行に行く時に一つの選択肢としてエコツアーや山間部や海の施設を紹介できればと日々考えてます。そこで「まち」と「さと」のつながりの可能性を具現化できればとおもいます。

□ **「展示から発展させる企画展示の可能性」 & 「アクアマリンこどもまつり実施報告」**

（中村 千穂／（公財）ふくしま海洋科学館 アクアマリンふくしま）

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、この夏水生昆虫に特化した企画展を考えています。常設展示では水生昆虫を中心に20cmキューブ水槽で一種ずつ展示していますが、ここからハンズオンを織り込んだ企画展の可能性を皆さんと考えたいと思います。昨年実施した「アクアマリンこどもまつり」についても報告します！

□ **ソーシャルデザインとしてのフェスづくり入門**（雨宮 優／Ozone）

大切なことも楽しくて面白くないと広がらない世の中です。SDGsが終わったあとの世界をフェスとして考えるWSを行います。フェスづくりを通してエデュテイメント(教育+エンターテイメント)の技術を学んでいきます。

□ **自分のまちをつくってみませんか？**（荒井 里江／高岡まちっこプロジェクト）

高岡市で空き家を活用しながら人口増進活動を大学生と一緒に5年間してきました。いろんな事例をつくってきましたが、空き家も少子高齢化も人口減少も歯止めがありません。それでも私には、こんなまちにしたいという夢があります。空き家を活用してもいいし、解体して新しくつくるのもよしだと思います。自分のまちをつくるワークショップをしてみませんか？

□ **震災を経て昇華した300年土着企業の役割**（里見 喜生／いわき湯本温泉古滝屋）

マーケティングやビジネスが大好きなホテル経営者。震災後生き方が一変した。いいえ変わったのではなく武器や鎧は必要なくなった。観光業は卒業、未来づくり業に転籍。衣食住エネルギーについて根底から考え、人とのつながりの効果、今後の生き方や子供たちへの未来を真剣に考えていきましょう。

□**虫の目と鳥の目で活動を評価し、より良い活動にしよう** (藤木 勇光/J-POWER 電源開発株式会社)

2015年に活動改善のための評価検討会(事務局 JEEF,企業6社,有識者3名で構成)を開催し、活動改善のためのチェックリストを作成し、2016年に社会的イノベーション評価に参加して「ジグザグ」を作りしました。チェックリスト(虫の目)と「ジグザグ」(鳥の目)を紹介し活動改善について考えます。

□**歌って踊って、環境啓発** (堀内 佳菜/公務員)

「野生動物にエサを与えてはいけません」。この手の類のこと、一生懸命伝えているのに伝わっていないなあ…と凹んだことはありませんか？人は「マジメ」な話ほど聞きませんよね。だったら、今度は少し「不マジメ」にして伝えてみませんか？みんなでマジメなメッセージを歌って踊って不マジメに届けるWSを開催します。

□**不動産からまちづくりへ。「困った」の見つけ方。** (山本 遼/R65 不動産)

当日は、R65 不動産で行なってきた、高齢社会に向けた空き家の使い方と、シェアハウスからできるまちづくり、外国人を呼んで地域を盛り上げる方法など、おたえします。空き家の活用や、まちをもっと盛り上げたい人に向けて、一緒に少子高齢社会について考える時間になりたいと思います。

□**百年後も愛される、面白きデザインを考える** (横山 貴敏/ボノ株式会社)

人が集まる仕組みってなんだろう？東京の寂れた路地裏に作られたコミュニティスペース「我楽田工房」は、人が集まる仕組みを追求するため全国の地域と繋がりながら様々なプロジェクトを展開しています。これまでやってきた場作りデザインの考察と、今年新たに始める東京都のイチオシ応援事業「くみぐま」について語ります。

□**つながりに疲れたひとへ 落書きにできること** (肥後 祐亮/特定非営利活動法人グローバル人材開発センター)

ひとつの円になってひとりひとりがその時、感じていることを話すことに耳を傾け、その出てきた話を僕がひたすら描きます。その中から、見えてくる「場」のこえを参加したみなさんと分かち合うワークをします。

□**日本の食で世界を変える TABLE FOR TWO**

(安東 迪子/特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International)

TABLE FOR TWO は、世界の肥満と飢餓の問題を同時解決することを目指し、2007年に日本で設立された NPO 法人です。10年間の活動の軌跡や支援先の状況についてお話させていただきます。